

科目名	教職実践演習(中・高)		科目ナンバリング	T-TLPR4-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	L10073		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志 川村 泰弘(実務経験のある教員) 佐藤 萬昭(実務経験のある教員)			授業 形態	演習	オムニバ ス	
	教員免許	必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>教員免許状の取得に必要な教科に関する科目、教職に関する科目等を履修し終えた段階において、これらの知識・技能を総合して、学校において生じる諸問題に対処できる力を養う。その際、それぞれの場面において特に求められる力を確認すると同時に、教員として持たなければならない知識・技能・態度等が確実に習得されているかどうかを確認し、これまで習得した知識・技能・態度等の総合化を図る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達 目標	今までで大学で学んだことを踏まえ、教員として実務を行うことができる									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			これまでの学修を振り返る					担当：奥野	
第2回	教育現場の問題			各自が実習中に感じた教育現場の問題点について報告する						
第3回	実践的問題と教育学研究の架橋 ①			第2回の発表内容を基に関心が近い者同士でグループを組み、関連する教育学論文を収集のうえ、解決策を考える						
第4回	実践的問題と教育学研究の架橋 ②			第3回で各グループがまとめた解決策について発表し、その是非についてクラス全体でディスカッションを行う						
第5回	教科指導の実際 ①			教科ごとに模擬授業を行う					担当：奥野/招聘講師	
第6回	教科指導の実際 ②			現職教員と共に模擬授業の総括を行う						
第7回	特別活動指導の実際			学級における話し合い活動の進め方をロールプレイングで考える						
第8回	学級経営の実際 ①			学級開きと最初の一週間の取組について構想を練る(全体発表)					担当：佐藤	
第9回	学級経営の実際 ②									
第10回	生徒指導の実際 ①			いじめへの対応について考える(グループ討議・全体発表)						
第11回	生徒指導の実際 ②									
第12回	保護者との対応			多様化する保護者像の理解を図るとともに、教師の最大の理解者であり協力者である保護者との信頼関係の構築について、面談や電話応対時のかかわり方を通して考える。(グループ討議・発表)					担当：川村	
第13回	個を生かす			一人一人の生徒は、それぞれの価値観に基づいて物事をとらえ、思考し、判断し、表現する存在であることを、1枚の写真のもつ情報やメッセージを読み取る。複数の写真をつなげて物語を構成するなどフォトランゲージの活動を通して問い直す。						
第14回	社会人の常識とマナー			社会人として知っておくべき常識やマナーを事例やロールプレイを通して確認し、4月からの社会人生活に備える。						
第15回	総括			<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を通じて教師にとって必要なことを各自考え発表する</li> <li>教職履修ファイル「自己評価」欄の記入</li> </ul>					担当：全員	
評価 方法 及び 評価 基準	各担当者により出される課題：25点 x 4名									
課題等	各担当者より適宜掲示にて指示する									
事前事後 学修	「教職履修ファイル」によるこれまでの学修成果の復習(各回60分)									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教職履修ファイル」</li> <li>各受講者の免許種に対応した学習指導要領(最新版)及び同解説(最新版)</li> </ul>									
留意点	教職課程最後の科目となる。「教職履修ファイル」を基に、これまでの教職課程の内容及び教育実習の内容をよく振り返ったうえで受講すること。なお、本科目は不定期開講の集中講義となるため、日程については掲示板をよく確認すること。									

科目名	障害と発達（2020年度以前） 社会福祉学特講A（発達と障害）（2021 以降）		科目 コード	W33025	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
				W-PWBF2-06		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	川村 泰弘				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕  国際生活機能分類による障害のとらえ方、「障害者」の法的定義、生涯発達の視点に立った代表的な発達理論、認知・社会性の発達等に関する基礎知識、障害理解と基本的なかかわり方等について、講義形式による学びを深め、福祉実践力の基礎を養う。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する									
到達 目標	1 WHOの国際生活機能分類（ICF）の考え方について説明することができる。 2 我が国における障害者の法的定義について、主な法律ごとに整理し、表にまとめる。 3 発達の概念、発達段階などの発達の基本概念と主要な発達理論を理解し、その要点をまとめる。 4 身体障害者福祉法等で規定される障害について、「発達」との関連を踏まえてその障害特性と基本的な支援のあり方を説明することができる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	「障害がある」ということ		学習内容、学習の進め方等について説明する。 ICF（国際生活機能分類）における障害のとらえ方を理解する。							
第2回	法律による障害者の定義		我が国の障害者に係る主な法律による障害者の定義を知る。							
第3回	障害者福祉の基本理念		障害者福祉の基本理念となるノーマライゼーションとインクルージョンの成立過程と基本的な考え方を理解する。					小レポート		
第4回	生涯発達の視点と発達課題		発達の概念の基本的事項、発達のとらえ方、発達に影響を及ぼす要因などを理解する。							
第5回			乳幼児期から青年期の発達段階と発達課題の概要を知る。							
第6回	知性・認知の発達の基礎知識		ピアジェの認知発達理論の基本的事項を理解する。 言語機能の発達と言語獲得理論の概要を学ぶ。					小レポート		
第7回	社会性の発達の基礎知識		愛着や道德性の発達、向社会的報道の発達の概要を理解する。							
第8回	記憶と知能の基礎知識		記憶の仕組みと機能、メタ認知と記憶方略の基礎を理解する。 知能の概念と定着、知能の測定と評価の基礎を知る。					小レポート		
第9回	障害の理解と基本的な支援のあり方		視覚障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第10回			聴覚・言語障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第11回			肢体不自由の理解と基本的な支援の仕方を知る。					小レポート		
第12回			内部障害（心臓・呼吸器・腎臓・直腸機能・小腸・H I Vによる免疫障害・肝臓機能）の特徴の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第13回			知的障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第14回			精神障害、高次脳機能障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。					まとめのレポートレ ポート		
第15回			発達障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
評価 方法 及び 評価 基準	レポート（40%）、試験（30%）、授業への参加度（30%）									
課題等	授業の区切りに行う小レポート、授業の最後に行うまとめのレポート									
事前事後 学修	事前：次時のテーマについて、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材 教科書 参考書	教科書：内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎編（2016） 「Next 教科書シリーズ 発達と学習」弘文堂 随時、資料を配付する。									
留意点	紹介する参考図書を積極的に購読し、「発達」「障害」への関心を深めてほしい。									

科目名	障害者の生涯学習			科目コード	W21026	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
							30時間				
区分	社会福祉学支援科目	選択	担当者名	川村泰弘				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕  障害のある人々の生涯にわたる教育権・学習権は国際的なレベルでも確認されている。本授業では、障害のある人々が種々の困難を乗り越えて生涯学習の活動に参加し、また、学ぶ機会の拡大を獲得していくためには、社会がどうあればよいかをディスカッションや「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成を通して考えていく。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する										
到達 目標	1 障害のある人々の学校教育終了後の学びと社会参加の現状と課題について、ディスカッションにより理解を深める。 2 障害のある人々の生涯にわたる学びの保障と推進・拡充のあり方について、自分の意見を述べることができる。 3 小グループ別に、先行事例を参考にしながら「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画を考え、発表する。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題			授 業 内 容				備 考			
第1回	オリエンテーション 生涯学習の定義と障害者と生涯学習			学習の進め方（グループディスカッション）について説明する。 生涯学習の歴史と「障害者の生涯学習」に関する我が国の取り組みを配布資料及び「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の報告」等を通して知る。				グループの確認			
第2回	障害者権利条約と生涯学習			教科書の「はじめに」及び「序章 障がい者権利条約と生涯学習の保障」を通読し、障がい者の学ぶ権利について意見交換する。				グループディスカッション			
第3回	生涯学習の場で学ぶ障害のある青年・成人の声を聴く			教科書「第1章 友だちと学ぶのは楽しい」を読み、障害者自身の語る言葉を通して、障害者にとっての生涯学習の意義と必要性を理解する。				グループディスカッション 小レポート			
第4回	地域・施設における青年学級の実践			教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第1節「那賀青年学級」（和歌山）と第2節「スマイル青年」（東京）の実践を通して青年学級の役割を考える。				グループディスカッション			
第5回				教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第3節「ハスの実の家」（福井）と第4節「われらの大学校」（滋賀、京都）の実践を通して「障害の重い人にとっての学び」と「知的障害のある人々の高等教育」について考える。				グループディスカッション			
第6回	大学におけるオープンカレッジの実践			教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第1節「オープンカレッジ東京（東京学芸大学）」の実践を通して、大学を活用した生涯学習講座の意義とその運営の在り方を探る。				グループディスカッション			
第7回				教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第2節「愛知県立大学におけるオープンカレッジ」の実践を通して、発達障害のある青年への生涯学習支援について考える。				グループディスカッション 小レポート			
第8回	障害のある人のスポーツ活動			教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第1節「スポーツ分野における障がいのある人の生涯学習」を読み、障害者スポーツの現状と障害があってもスポーツを学び・楽しむことのできる環境整備について考える。				グループディスカッション			
第9回	障害のある青年・成人期への性と生の学習			教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第2節「いのち・愛・性を学ぶ障がい当事者たち」を読み、障害のある青年・成人期における性と生の学習の大切さ考える。				グループディスカッション			
第10回	すべての人々の生活・人生における学びの保障			教科書「第5章 障がい者の社会教育、生涯教育の歩みと現状」の第1節「障がい者社会教育のとらえ方と課題」を読み、障害のある人々を含むすべての人々の生活・人生にとっての学習保障を考える。				グループディスカッション			
第11回	我が国における障がい者の社会教育・生涯学習の歴史			教科書「第6章 歴史に学ぶ」を通して、障がい者の社会教育・生涯学習の我が国における歴史的な流れを振り返り、障害のある人々の生涯学習のこれからを考える。				グループディスカッション 小レポート			
第12回	障害者の生涯学習を推進するために私たちがしなければならないこと			学生を数グループに分け、それぞれが障害者支援グループであると想定して、「（※）障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画案を作成する（※）はグループで自由に設定した障害名とする。				グループワーク			
第13回								グループワーク			
第14回	報告会「これからの障害者の生涯学習」			企画・運営計画案を発表し、話し合うことにより、「障害者の生涯学習講座」の計画づくりの楽しさと難しさを味わう。				グループワーク まとめのレポート			
第15回	障害のある人々の生涯学習支援			教科書「終章 障がい者の生涯学習支援の展望と課題」の第2節「断続性と任意の『生涯学習』から権利としての生涯にわたる学び・発達支援へ」を読み、障害者の生涯学習についての各自の考えをまとめる。				グループディスカッション			
評価 方法 及び 評価 基準	レポート（40％）、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成（30％）、授業への参加度（30％）										
課題等	授業の区切りに行う小レポート、まとめのレポート										
事前事後 学修	授業前に教科書の内容を確認しておくこと。 授業後は、ディスカッションで出された意見を参考に振り返りを行うこと。										
教材 教科書 参考書	教科書：田中良三・藤井克徳・藤本文朗編著（2016）『障がい者が学び続けるということ』新日本出版社 ISBN978-4406059794 そのほか、随時プリントを配布する。										
留意点	※企画・運営計画案の作成は、授業時間内だけでは難しい場合もあることから、メンバー間で空き時間等を調整して自主的・主体的に進めてほしい。										